

YOTSUBA の 風

伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 学校通信 第12号 平成30年9月5日発行



平成30年度 全国学力学習状況調査 結果

[平成30年4月17日実施 対象：第3学年]

今回の結果では、国語、数学、理科全ての教科において、知識を問うA問題、活用力を問うB問題ともに全国・群馬県の平均と比較して大きく上回る結果となりました。また、学力差を表す数値が低く、校内の学力差が小さいといえます。

【国語】

A問題ではどの問題の正答率も高く、生徒は基礎的な知識を概ね身に付けていると考えられる結果となりました。B問題では、「話すこと・聞くこと」の正答率が特に高く、「読むこと」でも全国・群馬県の平均を大きく上回りました。生徒の活用力の高さと、どんな問題にも解答しようとする生徒の意欲の高さを読み取ることができる結果となりました。また、質問紙調査では「授業中『課題解決』に向けて自主的に取り組めた」「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」「自分の考えが伝わるよう、工夫して発表できた」と回答した生徒が多く、本校の生徒は、授業中の話し合い活動や発表などの相互交流を通して理解を深めることができていると考えられます。

一方で「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において、他の問題に比べると若干の課題が残りました。今後は、発表や自己表現の場面において「書く」活動に意識化をし記述力の育成を心掛ける等、学習活動を精選し、指導事項を焦点化することで、更なる学力の伸長を目指したいと考えます。

【数学】

A問題については、比例式を解く問題を筆頭にどの問題でも高い正答率となっています。B問題についても高い正答率となりました。特に、理由を説明する問題、数学的な表現を用いて説明する問題で、全国平均を大きく上回りました

質問紙調査では、「数学が大切だと思っている」「数学ができるようになりたいと思っている」「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒が大変多く、意欲が高い生徒が多いと言えます。「数学のノートを工夫している」「根拠を理解するようにしている」生徒も多く、これまでの授業で指導されたこと、小テストや定期考査などに臨む日頃の姿勢が反映されていると考えられます。

一方で、A問題の中で「ひし形が線対称な図形か点対称な図形かを選ぶ問題」「一次関数の意味を問う問題」において、他の問題と比べると若干の課題が残りました。これらの内容については、授業中に復習の機会を設けるとともに、これから学習する単元でさらに定着できるようにしていきます。さらに、これまでと同様に根拠を説明する場面を多く設定したり、発表場面で数学的な表現を用いて説明できるよう支援していくことで更なる学力の伸長を目指したいと考えます。

【理科】

調査の全体を通して高い正答率となっているため、全国・群馬県の正答率が低い問題ほど、本校の正答率が大きく上回る傾向が見られ、全国の生徒が苦手とする領域や問題が本校の強みとなっている傾向が見られます。

物理、化学、生物、地学の4領域では、すべての領域で全国・群馬県の正答率を上回っています。問題形式では、記述式の問題の正答率が高く、記述式の無回答率は低い値となっています。このことから、問題を解くことを簡単にあきらめてしまわず、答えを導き出そうと努力している傾向が見られます。

質問紙調査では、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがある」、「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した生徒が全国平均を上回っており、自然の中での遊びや観察を行った豊かな体験から、理科に対する関心・意欲が高まっている生徒が多いと考えられます。また、授業で「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う」と回答した生徒の割合が全国・群馬県の平均を大きく上回っており、自ら考え行動する力や自分の考えを他人に伝える力が身に付きはじめていると考えられます。

一方で、「観察・実験の技能」において、他の問題と比べると若干の課題が残りました。授業で実際に観察や実験を行った設問については高い正答率が得られているので、今後は授業中での活動の場面を保証し、技能の習得や思考の深まりを促していくことで更なる学力の伸長を目指したいと考えます。

【全体総括】

四ツ葉学園では、『四ツ葉の学び』（「知識・技能の確実な習得を基にした思考力、判断力、表現力を育成する学び」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する学び」）を意識した授業を全教員で行い、生徒の学力を着実に付けることを大切に授業を行っています。この結果、これまでの本調査においても知識の定着と理解の深化、思考力・表現力・判断力等の活用力の向上に成果を上げてきました。一方で年度ごとに特有な課題も見られています。今後は学年に応じた課題について焦点化した指導を行い、生徒の学力の更なる伸長を目指していきます。